

関東ふれあいの道(茨城)⑭寺社めぐりと田園風景のみち

2022年2月1日(火) 池内淑皓

2021年10月3日(快晴)。前回のコース⑬は、下佐谷バス停でゴールであるが、今宵の宿泊場所がコース⑭の県立中央青年の家の近くにあるので、そのままコース⑭を歩き続ける。それにしても筑波山へと繋がるこの山の中に一軒家のホテルがあるとは驚きの一言に尽きる。浅草の古事「姥が池」はないが、少し不安も感じる。



下佐谷バス停から今宵の宿泊場所のいやしの里ホテルまでの繋ぎの道



さすがに果樹の里にふさわしく、果樹園の農家では果物がいっぱい並んでいる



私もここで石岡特産品の「栗」をお土産に購入



下佐谷からコース⑭の永井まで連絡路を歩き、⑭コース「寺社めぐりと田園風景のみち」に入る。
春なら桜のトンネルとなる並木を歩くが今は秋、淡々と尾根道を登る。暑いうえに疲れているから大変



見晴らしの良い尾根上に「県立中央青年の家」がある、県の研修施設と言う事で、一般旅行者は泊まらない



さらに山に向かって 20 分程歩き、標高 244mの地点に行くと



「ホテルいやしの里」があった。こんな山の中に一軒宿があるとは、びっくり



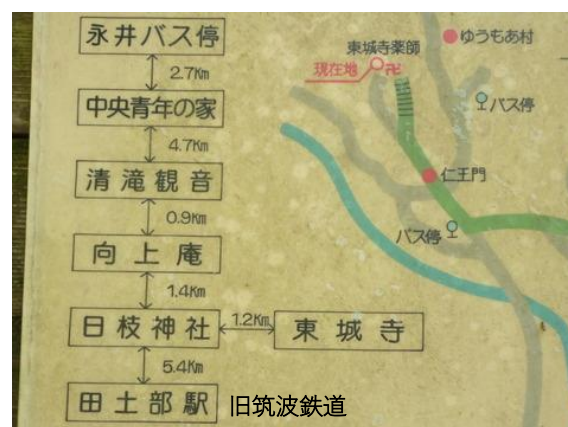
今宵は私一人の宿泊だと言う。露天風呂に浸かりながら、土浦の町並みを眺める



⑭コース案内板(首都圏自然歩道協議会)



⑭コース案内図 (17.5km 6 時間コース)(首都圏自然歩道連絡協議会)



工程図(右の地図でバス停があるが、既に廃止路線となっている)



何事もなく、いやしの里ホテル 8:50 出発 今日も快晴だ！



道標に従って清滝観音に向かう



林道に山栗が落ちている。猿やリスに食べられる前に有難く頂く事にする



ほとんど山道に近い林道、標高差 100mを一気に里まで下る



県道に出ても、切通状の兜山の裾を回り込むように行く



道標通り小町の里に向かう、「小野小町」ゆかりの地だと云う



この辺りは柿畑が多い



取ってはいかん！



「清瀧観音」 山門を通して本堂に向かおう。この山門江戸時代の作りで、現在まで唯一残った往古の名残だと言う



「南明寺清瀧観音」706 年開基。真言宗豊山派の寺で、坂東 33 観音 26 番札所



「向上庵」(非公開) 麓の法雲寺の支院で、樹齢 300 年のしだれ桜が有名



小町の里へは集落を結ぶ農道を通り抜けてゆく、やっと秋らしい秋桜が咲いていた



「小町の里」この辺りの集落名を”小野”と云う。小野小町ゆかりの里であるからだ



小町の里は、広い公園となっていて、資料館や茶店もあるからゆっくり休める



公園に隣接して小野集落の村長の家がある。苗字が小野で、敷地の中に小野小町の墓が祀られている



「小野小町の墓」案内板を読むと、小町が都から奥州に向かう途中この地で病に倒れ、村長の家で療養するも他界する。敷地内に五輪塔を立てて供養した、と伝える。因みに小町の墓は全国何処にでもある



後方の山は昨日歩いた尾根で、山の中に、宿泊したいやしの里ホテルがある



東城寺は、山寺の風情を色濃く残す貴重な古刹



「東城寺」延暦 15 年(796)最澄の弟子最仙により開基。常陸の国天台宗の根本道場であったが、鎌倉時代に真言宗に改められた。天正年間の兵乱で灰燼に帰した



本コースのタイトル通り、山裾に広大な田園が広がる、ここは常陸の国の穀倉地帯



ススキが穂を出し稲は黄金色に変わった、秋酣(たけなわ)だね



ゴールの旧筑波鉄道田土部駅跡に到着、ここが今日のコースのゴール地点、17.5km、6 時間であった
(道路が線路で、左側の土手がプラットホーム)



ゴール地点から 5 分程で、土浦駅行きのバス道路に出る。14 時 51 分発に乗れた



土浦駅発 15:49 分がある。グリーン車に座って完歩のビールでも飲もう(コロナの影響のためグリーン車は飲食可)

[参考タイム] 下佐谷バス停(14:15)→県立中央青年の家(15:30-15:35)→いやしの里ホテル(16:00 ゴール)

10月4日(月)

いやしの里(8:50)→青年の家分岐(9:03)→県道合流(9:44)→清滝寺(10:40-10:45)→向上庵
(11:00-11:05)→小町の里(11:20-11:35)→東城寺(12:20-12:40 昼)→旧田土部駅ゴール(14:33)
→下大島バス停(14:43-14:51)→土浦駅(15:40)

この項完

「関東ふれあいの道(茨城)⑮学園都市のみち」へ続く